

ブラジル中央銀行が追加利上げを決定

～インフレ加速で1%幅の利上げを継続～

◆5会合連続の利上げ。利上げ幅は1%

ブラジル中央銀行(以下BCB)は9月22日の金融政策決定会合において、全会一致で政策金利(翌日物国債レポ金利)を1.00%引き上げ、6.25%とすることを決定しました。利上げは5会合連続となります。BCBは、足元で想定以上にインフレが加速していることなどから、インフレを抑制できる水準まで政策金利を引き上げる方針を示しており、今回会合でも1%幅の利上げが行われるとの見方が強まっていました。

◆BCBはインフレ抑制姿勢を強める

ブラジルではインフレ上昇が加速しています。ブラジルの8月の消費者物価指数は前年同月比+9.68%上昇し、2016年2月以来の大幅な伸びとなりました。食品価格に加え、自動車燃料や電力の価格が一段と上昇しており、その影響が広範な品目に波及している模様です。【図1】

BCBが実施するエコノミスト調査によれば、政策金利は来年には8.5%まで到達すると予想されています。BCBは今回会合の声明文においても、次回10月会合で1%幅の利上げを継続する方針を示唆しています。

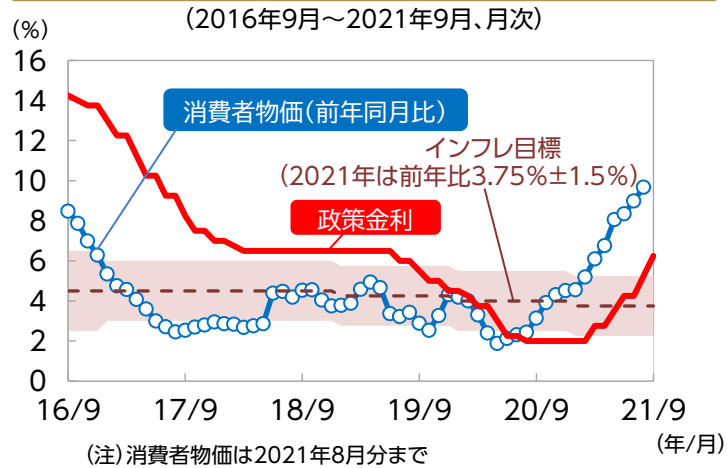
◆レアルは国内の政治動向が焦点に

ブラジルでは政局の混迷が深刻化しています。同国のボルソナロ大統領は、来年の大統領選挙を念頭に現在の電子投票による投票制度に異議を唱え、最高裁の決定には従わないと表明しています。この言動に対して議会でも反発が広がっており、上院で税制改革法案の審議が停滞しているほか、民間調査会社ダッタフォーリャによると、大統領への不支持率が5割を超え、大統領の弾劾に向けた動きも広がっている模様です。【図2】

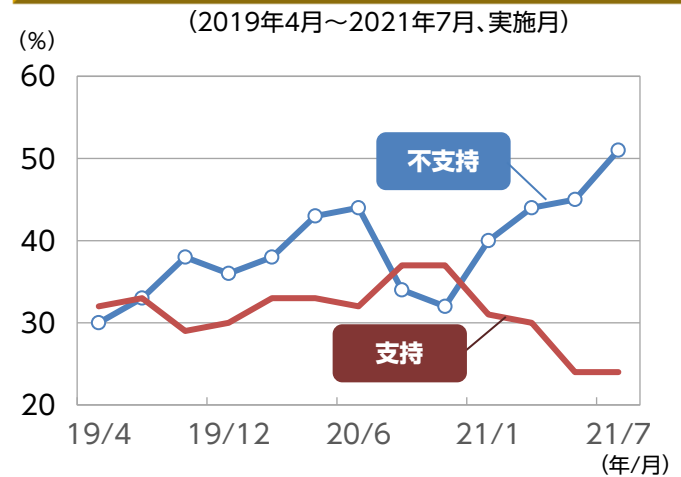
ブラジル・レアル/円は、鉄鉱石価格の下落や国内の政治的な混乱などが足かせとなり、9月中旬以降は21円を割り込むなど上値の重い展開が続いています。【図3】

今後も利上げは通貨レアルの支援材料になるものの、一方で根深い汚職問題と不安定な政治情勢というリスク要因が深刻化していることから、特に大統領の政治行動については注視していく必要があると見られます。

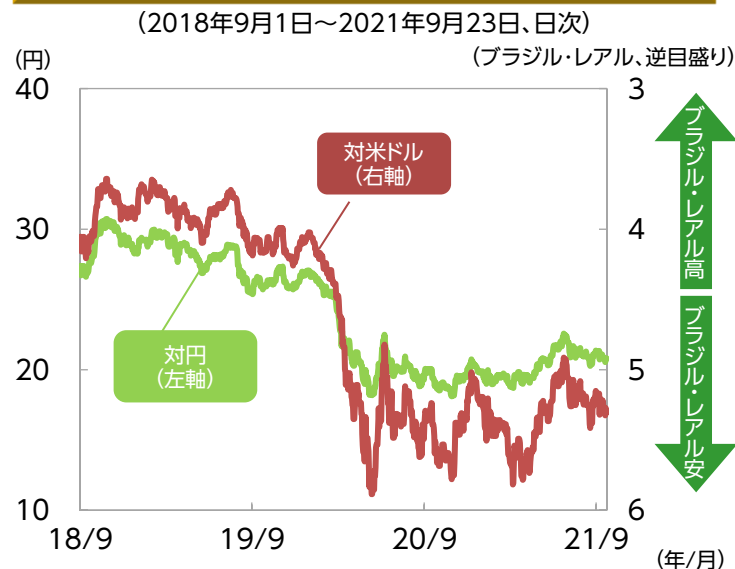
【図1】政策金利とインフレ率の推移



【図2】ボルソナロ大統領の支持率



【図3】ブラジル・レアル為替レートの推移



(出所) Bloomberg、ダッタフォーリャのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。